



## 徳島市民病院85年の歩み（3）



徳島市民病院事業管理者  
露口 勝

### 7. 徳島市民病院（北常三島町）

寺島本町西の市民病院は、戦災復興期の中で応急的に建設され、診療を続けていた。利用者の増加とともに市民の要望に応えるため診療科目を増やし、病棟の建て増しを何度も行い、市民の医療機関としての役割を果たしてきた。しかし、これ以上の増築や拡張は現在地においては無理であり、将来の医療の高度化への対応や、病院の機能的な運営などには適さなくなってきた。そのため徳島市は病院の移転改築を考え、昭和39年6月に豊田幸太郎市長は、新しい市民病院の構想について次のように発表した。

病院の規模は現行のベッド数196床を320床にする。建物は鉄筋コンクリート6階建て延べ床面積は1万2,000平方メートル、建設費4億5,000万円で3ヵ年計画とする。移転先は中徳島町の市立動物園を眉山に移し、その跡地に建設するというものであった（昭和39年6月10日付徳島新聞）。

この案は動物園の移転を前提としていたのに、動物園の移転が所管の産業交通委員会で継続審議になってしまったため、市民病院の移転先が宙に浮いて決まらず、移転用地については引き続き検討することとして、市民病院の移転改築案は継続審議となった。その後移転候補地を種々検討した結果、北常三島町2丁目に移転先を決定、新たに4,000坪の敷

地を求めることにし、用地買収費および造成費を加え総事業費6億4,700万円で市議会の可決を得た。

なお市民病院の移転改築によって、病床規模が拡大されることに反対の意志を表明した地元医師会は、市民病院移転改築に反対する請願書を提出していたが、これは市議会で不採択となった。その後においてもベッド数の制限や外来患者の受付制限などの申し入れがあり、市と医師会で話し合ったが解決に至らず、県知事の調停によって解決するといった一コマもあった。

新病院の起工式は昭和40年4月6日午前10時から北常三島町2丁目の現地で行われた（図10）。その後工事は順調に進み、新病院は昭和42年9月に完成した（図11）。落成式は同年9月25日午前10時から新病院1階ロビーで行われ、式には豊田市長、篠原義平市議長、岩崎基市民病院院長ら市関係者のほか、厚生大臣代理の松本隆夫同省四国地方医務課長、武市恭信知事、北村義男徳島大学医学部長ら来賓合わせて約300人が出席し盛大に行われた（図12）。



図10. 徳島市民病院起工式



図11. 徳島市民病院（北常三島町）



図12. 徳島市民病院落成式

この新しい病院は9月27日を病院内参観日として一般市民に公開された。寺島本町西の病院から北常三島町の新病院への引越しは、同月28日に荷物の引越しが行われ、翌29日に入院患者80名は貸切の市バスと救急車で移動し、すべての引越しが無事完了した。

市民病院の医師は昭和3年の開院以来、大阪大学から派遣されていたが、この新病院への新築移転を期に大半の医師が徳島大学出身者に入れ替わった。私は新病院が完成して間もない昭和46年はじめに、この病院の外科に短期間勤務したことがある。外科の中川利一先生が市内大和町で開業されることになり、徳島大学病院から急遽派遣されたのである。当時は矢野嘉朗外科部長の時代で、橋本先生が徳島で初めて脳外科を開設され、外科および脳外科部門は非常に活気に満ちていた(図13)。



図13. 手術中の矢野先生（右）

新病院は地下1階、地上6階建て白亜の鉄筋コンクリート造りの建物で、玄関を入ると1階ロビーが吹き抜けになっていて、開放感のある素晴らしい病院であった。病院の裏にはテニスコートがあって、診療が終わった夕方に岩崎院長はじめ各科の医師や放射線技師が集まり、あたりが暗くなるまで軟式テニスを楽しんだものである。しかし、新病院は前の寺島本町の病院と違って市中心部から離れた場所にあり、当時は交通も大変不便であった。そのため開院当初は患者数が増えず、病院経営は赤字状態が続いていた。

昭和54年に麻酔科が新設され、昭和55年に病院増築工事として3階建ての新館（1階診療棟、2階手術室、ICUおよび一般病棟、3階管理棟）が完成した。病床を18床（ICU 6床、一般12床）増床し、泌尿器科も新設された。さらに昭和57年に一部4階建ての新館（1階診療棟、2階病棟、3階管理棟、4階病歴管理室）が増築され、総病床数437床（一般397床、伝染40床）となり、総合病院としての診療体制が整えられた。矢野院長はじめ当時の若くて有能な職員が一丸となって診療内容の充実を図るとともに経営改善に努め、アツという間に経常収支を黒字化し、市民病院は経営健全化に成功したのである。

数年前のことであるが、当時病院長をして



いた私は度重なる経常収支の赤字に苦しんでいて、矢野先生に病院経営のコツをお聞きしたことがある。矢野先生曰く、「あれは妙なもんじゃなあ、一度良くなるとずっと良くなる」と。それを聞いて私は「そんな簡単なもんかなあ」と思いながらも、ホッと安堵したことを憶えている。恐らく先生は、私の心情を察して「そんなに心配するなよ」と励ましてくれたのであろう。

昭和60年4月に私は徳島大学病院第2外科より再び派遣され、2度目の市民病院勤務となった。年齢は40歳であった。病院長は阪口彰先生で、森本重利外科部長の時代である。徳島ではじめて開業医との共同診療用のオープン病床29床が開始された頃である。中央放射線部に体外衝撃波腎・尿管結石破碎装置が設置され、MRI棟の新設など新しい医療機器が続々と導入された。産婦人科病棟は新生児であふれ（図14）、病院の経営状態は毎年黒字の連続であった。そして昭和61年に市民病院は地域医療の確保に重要な役割を果たしている病院として、全国自治体病院開設者協議会および全国自治体病院協議会の両会長より自治体立優良病院表彰を受けたのである（図15）。この記念の楯は今も院長室に飾られており、市民病院の全盛期の象徴として燦然と輝いている。



図14. 新生児病室



図15. 自治体立優良病院表彰

当時は外科、脳外科、産婦人科、整形外科など外科系診療科の診療体制が充実し、病院として成熟期を迎えており、地域住民から選ばれ、信頼される病院になっていた。阪口院長が退任される時に、「これだけの病院はなかなか作れないよ」といわれたことを今も鮮明に憶えている。この受賞記念の楯を見るたびに、市民病院にもこんな輝かしい時代があったのだと、赤字続きの病院長時代に何度勇気づけられたことであろうか。

当時市民病院には眉誠会という職員の互助会があり、給料から天引きされた費用でいろんな同好会やクラブへの援助がなされていた。野球、ソフトボール、テニス、バレーボール、ボウリング、ゴルフなどスポーツクラブばかりでなく、お茶、お花、日本舞踊や釣りクラブなどもあり、各種大会の開催や、阿波踊り、職員旅行、忘年会など、仕事だけでなく職員の親睦を図る趣味のサークル活動が盛んに行われていた（図16）。特に忘年会は徳島市の冬の風物詩の一つといわれるほどの大宴会で、市長をはじめ300名を超える出席者があり、各部署から余興もたくさん出て、歌って踊っての楽しい思い出となっている（図17、18）。

私は小唄の会に入っていた。毎週土曜日の午後に花街から芸暦50年という年配のお師匠



図16. 眉誠会ゴルフ大会



図18. 眉誠会忘年会 日本舞踊（お夏清十郎）



図17. 眉誠会忘年会

さんが来られ、病院別館2階の日本間でお稽古を受けていた。凜と響く三味線の伴奏でお師匠さんから小唄のおさらいを受け、それを録音テープにとって病院への行き帰りに車の中で毎日練習していた。徳島は芸どころであり、阪口院長をはじめ安達副院長や看護師長、放射線科技師長など小唄会の面々はみんな芸達者で、一流料亭での新年会や夏のゆかた会で自慢ののどを披露し、唄や踊りをずいぶん楽しんだものである（図19）。小唄は日



図19. 小唄発表会（新年会）



本情緒があつてとても良かったが、お師匠さんが高齢で亡くなると小唄会は自然消滅し、まさに滅びの芸であったようで残念でならない。

昭和の終わりから平成のはじめ頃は日本社会が高度経済成長期に入り、社会全体が明るく希望に満ちていた。職場は家族的で、仕事も遊びも病院とともにあり、職員の満足度も高かったように思う。「禍福はあざなえる縄の如し」といわれるが、このような良い時代は長く続かなかった。その後病院の建物が古くなり新しい医療機器が導入できなくなると、職員のモチベーションが落ちて医療を取り巻く環境変化に対応できなくなり、病院の経営状態は次第に悪化していった。平成4年から経常収支が赤字に陥り、その後一度も改善することなく毎年多額の赤字を計上する深刻な状況が続いた。職員の経営改善への努力

も空しく平成16年より不良債務が発生し、このままでは市民病院の存続が危ぶまれる事態となったのである。

このような状況の中で徳島市は、かねてより計画していた現在地での新病院建設に取りかかることになる。そして市民病院の経営改善を目的に、平成18年より徳島赤十字病院の湊省先生を病院事業管理者として招聘し、新病院の建設と経営改革を一層進めていく。私はこの変革期の病院長に選任され、湊先生とともに価値ある地域の中核病院を目指して、新しい病院改革に取り組むことになった。院長就任祝賀会で原市長はじめ湊先生、歴代の市民病院長や職員から身に余る賛辞をいただき（図20）、その責任の重大さをひしひしと感じながらも自分達にこの大きな病院改革が果たして出来るのであろうかと期待と不安の入り混じった複雑な心境になった。（つづく）



図20. 院長就任祝賀会